

額塚

この石は春日大社よりも前にすでに存在し、自然の神を崇める印として大社が建立された際、この場所に残されました。説の一つとして、772年に雷により落下した、武甕槌命（雷の神）の名前が記載された社額を埋めたことから額塚と名づけられたとの説があります。額塚の意味は、「社額が埋められた墓」です。

この石を守り、敬意を表すため、石の周りに柵が設けられました。このようにして、神聖な場所やものを保護し、崇める方法は、神道の特徴であり、春日大社の建立以前より、石を崇める信仰があったことの証拠となっています。